

産業成長戦略の上半期の進捗状況等

分野：林業分野	戦略の柱： 木材産業のイノベーション（２）	取組方針：木材・木製品の高付加価値化の推進（A材の活用）、プラットフォームづくり等による地産・外商体制の強化、森の資源を余すこと無く活用
---------	-----------------------	--

【概要・目的】

県内外における県産材の需要拡大を図るため、乾燥材等の生産拡大に必要な施設の整備への支援及び製材事業者の経営体質の強化に向けた「事業戦略」の策定とその実践、技術者等の育成を推進する。また、新たなマーケットの開拓として非住宅分野の木造化・木質化に向けた製品開発及び需要にマッチした生産供給体制（SCM）の確立に向けた取り組み等を促進する。さらに、森の資源を余すことなく活用するため、木質バイオマスを活用した熱電併給施設や熱供給用ボイラー等による木質バイオマスの利用拡大を図る。

令和２年度当初計画（P）

3. 木材・木製品の高付加価値化の推進（A材の活用）

- (1) 非住宅分野向けの高付加価値製品の開発（チーム・ティンバライズとの連携）
- ・都市木造ワーキングの開催（年４回）
- ・木質部材・製品の試設計、提案用コンテンツの作成
- (2) 高付加価値製品の販路開拓
- ・県内外の施主、デベロッパー等への提案（10～3月）

4. プラットフォームづくり等による地産・外商体制の強化

- (1) TOSAZAI センターを中心とした情報交流の拠点の整備（4月～3月）
- ・製材品等の需要情報の把握と事業者への提供
- (2) 県内製材工場等の連携による集出荷体制の整備（4月～3月）
- ・県内市場、製材工場等との勉強会・意見交換会等の開催
- ・SCMによる効率的な集出荷体制の検討
- (3) 需要にマッチした生産供給体制（SCM：サプライチェーンマネジメント）の確立
- ・SCM情報交換会の開催（年４回）
- ・サプライチェーン全体の最適化に向けた検討

5. 森の資源を余すことなく活用

- (1) 小規模木質バイオマス発電所の整備（熱電併給）
- ・木質バイオマスエネルギー利用促進協議会 運営委員会（9月）及び全体会（6月、10月）の開催
- ・県内外の動向と事例について情報収集
- (2) 幅広い分野への木質バイオマスボイラー等の導入促進（熱利用）
- ・木質バイオマスエネルギー利用促進協議会 運営委員会（9月）及び全体会（6月、10月）の開催（再掲）
- ・木質バイオマス利用の拡大に向けた取組状況の情報発信と新たな事業者の掘り起こし
- 利用拡大に向けて木質バイオマス関係者等との意見交換、講演会の開催
- ・木質バイオマス燃料の流通等の動向の把握

計画を進めるに当たってのポイント

- ・高付加価値製品や試設計による木造・木質化の提案ツールの拡充
- ・SCMによる建築用部材の出荷

令和２年度上半期の取り組み状況（D）

3. 木材・木製品の高付加価値化の推進（A材の活用）

- (1) 非住宅分野向けの高付加価値製品の開発（チーム・ティンバライズとの連携）
- ・高知都市木造ワーキングの年間活動内容についてのwebミーティングを開催（5/29、7/10）
- ・高知県内のメンバーによる企画ミーティングを開催（6/4・10・24）
- ・高知都市木造ワーキングの開催（8/6）

(2) 高付加価値製品の販路開拓

4. プラットフォームづくり等による地産・外商体制の強化

- (1) TOSAZAI センターを中心とした情報交流の拠点の整備
- ・こうちエコハウス内（南国市）にプラットホームMokuを開設（5/1）
- (2) 県内製材工場等の連携による集出荷体制の整備
- ・県外事業者の展示会に併せて土佐材を出展（4/21、5/13、6/26、7/15）
- ・県内製品市場との意見交換会を開催（5/23、6/8、7/31、8/3・4）

【新型コロナウイルス感染症による影響】

- ・土佐材展示会の開催延期の調整（4/3、18）
- ・土佐材展示会の中止（5/23～24 愛知、8/8～9 香川）
- ・インテリアライフスタイル東京の中止（6/3～5）
- ・大阪府建築士会他の産地商談会の中止（5/15～16、6/6～7 他 8 件）
- (3) 需要にマッチした生産供給体制（SCM：サプライチェーンマネジメント）の確立

5. 森の資源を余すことなく活用

- (1) 小規模木質バイオマス発電所の整備（熱電併給）
- ・木質バイオマス発電施設の稼働状況、燃料収集状況の把握（4～6月）
- ・本山町におけるバイオマス発電施設（再生可能エネルギー発電事業計画認定 6月）
- ・小規模木質バイオマス発電所の整備に関する個別相談（2件）

【新型コロナウイルス感染症による影響】

- ・木質バイオマスエネルギー利用促進協議会 全体会（6月）については延期（9月予定）
- (2) 幅広い分野への木質バイオマスボイラー等の導入促進（熱利用）
- ・木質バイオマスエネルギー利用動向の把握（7月）
- ・県内ペレット製造量及び流通量の把握（5月）
- ・熱利用向け木質燃料の安定供給にかかる支援（原木確保：2 事業者）
- ・木質ペレットボイラー導入の支援（1 事業者）

【新型コロナウイルス感染症による影響】

- ・新型コロナ感染症拡大の影響による新たな施設整備計画の中止（1 事業者）

課題・改善策と今後の取り組み（C、A）

見えてきた課題

3. 木材・木製品の高付加価値化の推進（A材の活用）

- ・新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた取組内容や手法の再検討が必要
- (1) 非住宅分野向けの高付加価値製品の開発（チーム・ティンバライズとの連携）
- ・年間スケジュールの見直しと年度内成果の優先順位付け、取捨選択が必要
- (2) 高付加価値製品の販路開拓
- ・社会構造の変化に対応した木材利用（サテライトオフィスの木造・木質化等）の企画・提案の検討
- ・新規の県外事業者への提案・外商手法の検討
- 4. プラットフォームづくり等による地産・外商体制の強化
- (1) TOSAZAI センターを中心とした情報交流の拠点の整備
- (2) 県内製材工場等の連携による集出荷体制の整備
- ・製品市場等の意見を踏まえた集出荷方法の具体的検討が必要
- 5. 森の資源を余すことなく活用
- ・新型コロナウイルス感染症拡大による設備投資への意欲の減退

今後の主な取り組み（改善策を含む）

3. 木材・木製品の高付加価値化の推進（A材の活用）

- (1) 非住宅分野向けの高付加価値製品の開発（チーム・ティンバライズとの連携）
- ・都市木造ワーキングによる新しい生活様式への対応も含めた試作・試設計の検討、実施
- ・木造・木質化のプレゼンツールの充実（既存パンフレットのリバイス、試設計・CG・動画等による提案用コンテンツの作成）
- (2) 高付加価値製品の販路開拓
- ・県内外の施主、デベロッパー等への提案（10月～3月予定）
- ・TOSAZAI センターにおける Web 商談体制の構築

4. プラットフォームづくり等による地産・外商体制の強化

- (1) TOSAZAI センターを中心とした情報交流の拠点の整備
- ・TOSAZAI センター及びプラットホーム Moku による製材品等の需要情報の収集・提供
- (2) 県内製材工場等の連携による集出荷体制の整備
- ・製品市場等との勉強会・意見交換会の開催
- ・新型コロナのダメージの大きな製材工場等の事業継続に向けた伴走支援
- (3) 需要にマッチした生産供給体制（SCM：サプライチェーンマネジメント）の確立
- ・SCM推進協議会でサプライチェーン全体の最適化に向けた検討

5. 森の資源を余すことなく活用

- (1) 小規模木質バイオマス発電所の整備（熱電併給）
- ・木質バイオマスエネルギー利用促進協議会 運営委員会、全体会、講演会の開催
- ・本山町におけるバイオマス発電施設に関する進捗状況の確認
- (2) 幅広い分野への木質バイオマスボイラー等の導入促進（熱利用）
- ・木質バイオマスエネルギー利用促進協議会 運営委員会、全体会、講演会の開催（再掲）
- ・木質バイオマス利用に対する支援施策のPR

【令和２年度末の目標】

- 1. ワーキング等による商品開発数（試作及びアイデア数）＝ R2：14（R元比 +3）
- 2. 開発商品の提案型営業回数の増加 ＝ R2：延べ60回（R元比 +10回）
- 3. 企業での採用件数の増加 ＝ R2：3件（R元比 +3件）
- 4. 県内でのセミナー・勉強会の開催回数の増加 ＝ R2：15回（R元比 +1回）
- 5. 県産製材品の県外出荷量の増加 ＝ R2：113千m³（R元比 +9千m³）
- 6. SCMフォーラムにおいて具体化した取組数の増加 ＝ R2：1（R元比 +1）
- 7. 熱電併給による小規模木質バイオマス発電所数 ＝ R2：1施設（R元比 +1施設）
- 8. C・D材利用量の増加 ＝ R2：274千m³（R元比 +7千m³）

【直近の成果】

- 3. 企業での採用件数の増加：1件（8月末）
- 4. 県内でのセミナー・勉強会の開催回数の増加：2回（8月末）
- 5. 県産製材品の県外出荷量の増加：20.4千m³（6月末）【対前年同期比 80%】

